

本校の教育活動が茨城新聞で紹介されました。〔令和5年2月15日（木）〕

本校では、令和4年度から外国人特例入学者選抜の枠を40名とし外国籍生徒の個々の能力が発揮できる学校として支援を行っています。地元である常総市をはじめとして、県西地区では日本語を母語としない外国籍生徒が増えています。人口減少が進む茨城県にとって、外国人の方々を迎入れることは非常に重要なテーマです。外国人の生徒の状況をしっかりと踏まえながら教育する学校として、地域社会の担い手を育成しようと支援を行います。

現在石下紫峰高校には15カ国の外国籍生徒が100名以上在籍しています。外国籍生徒を対象に国語、理科、学校設定科目の授業を中心に「取り出し授業」を実施しています。外国籍生徒支援教育についてはまだ新しい分野の事業であり、前例がありません。記事の通り手探りの状況ですが、失敗を恐れず様々なことに挑戦しています。

国籍も言語もそれぞれの個性であるとお互いに認め、その個性を十分に発揮できる能力を身につけてほしいと思います。

外国人枠設定2割 公立高入試、対応に差

全国の2024年度の公立高校入試で、外国人生徒へ特別選抜による定員枠を設ける学校が前にとまること3日、共同通信の調べで分かった。文部科学省各教育委員会に定員枠の設を求めているが、入学後の管理体制の不安などから地域や学校によって対応に差があり、狭門となっている。近年、外国籍の子どもは増加しており、専門家は「高校進学でますます、正規雇用と苦勞する傾向が強い。さみ細かい支援が必要」と指摘する。

各都道府県教委などによ、要と語る。るく、外国人生徒向けの定員を設けるのは、全自治と定めていく学校はゼロだ。定時の延べ約3000校、そのうち栃木、群馬、茨城の3県など25都道府県、福岡の4県は定員枠がある約750校。ただ、は設けないものの面接など定員については「若干名」外国人生徒向けの特別選抜から員体的な募集人数を示す実施一方で「入学してから学校までまじまじと、石中退さないための体制が整っていない」として定枠を設ける。県教委の担当者は「日本語の習熟度に合わせた入試が必要」と、日本語教科書にと、日本語

公立高校入試で、外国人生徒向けの定員枠を設ける学校が全国で前にとまること3日、共同通信の調べで分かった。茨城新聞の取材によ、公立高校入試で、外国人生徒向けの定員枠を設ける学校が全国で前にとまること3日、共同通信の調べで分かった。茨城新聞の取材によ、公立高校入試で、外国人生徒向けの定員枠を設ける学校が全国で前にとまること3日、共同通信の調べで分かった。

日本語指導、手探り

石下紫峰高 風景説明の独自授業

公立高校入試で、外国人生徒向けの定員枠を設ける学校が全国で前にとまること3日、共同通信の調べで分かった。茨城新聞の取材によ、公立高校入試で、外国人生徒向けの定員枠を設ける学校が全国で前にとまること3日、共同通信の調べで分かった。

公立高校入試で、外国人生徒向けの定員枠を設ける学校が全国で前にとまること3日、共同通信の調べで分かった。茨城新聞の取材によ、公立高校入試で、外国人生徒向けの定員枠を設ける学校が全国で前にとまること3日、共同通信の調べで分かった。

